

## 「地方自治入門」講座を受けて 君島大輔

今日、日本の国民は政治に対して無関心であると言われていています。これは、政治に対する不信感、不透明感の表れであると思います。現に、私も選挙権を初めて持った二十歳のとき、「政治は政治家が行うもの、自分一人が選挙に行ったところで何が変わるわけでもない」と、選挙に行かなかったことを覚えています。日本の国民が政治に対してもっと興味、関心が持つにはどのようにしたらよいのでしょうか。

今回の講座では、現在、全国で進められている合併問題について特に多くの時間を割いたと思います。実際に栃木県内で行われている合併事例について、先生をはじめ、実際に合併問題に直面している議員の方、合併する、される地域に住んでいらっしゃるなど、様々な人から本音の意見を聞くことができ、非常に興味深いものでした。私は、この合併問題に対する取り組みが政治に対する無関心を打破するものの一つになりえるのではないかと感じました。

講義、討論の中で感じたことは、住民の合併に対する強い拒絶感です。今回の合併は住民側からでたものではなく、国から押し付けられた「強制合併」のような一面があります。また、合併によって、その地域の郷土性、ネットワークが失われてしまう恐れもあります。このような中で、住民が合併に対して反対の立場を取るのは当然のことだと感じます。

しかし、逆に考えてみれば、それだけ住民はこの合併という問題に強い関心があると言えるでしょう。「地方自治は民主主義の学校」だと言われます。今回の合併問題において、地方自治という政治に強い関心を持つ姿勢は、あながち悪いことだらけではないのではないと感じます。(勿論、私が切迫した問題に直面していないからこそ考えられることなのですが)

自分の住んでいる所のことに関心を持つのは至極当然のことだと思います。それが、国という大きなレベルになると身近に感じにくくなり、自分一人ではどうにもならないことなのだとな無力感を感じてしまうのではないのでしょうか。まずは身近なところでいいので政治に興味、関心をもつこと。出来れば参加してみることを。皆がそのような取り組みをすることが自分の住む地域、そして、日本をより良くすることにつながるのではないかと思います。